

## 2019年度 在外研究制度 研究員

所属	資格	氏名	種別	期間	主たる研究国	主たる研究先	研究題目	研究報告	備考
文	准教授	田中 裕介	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	イタリア フランス	ヴェネツィアIUAV大学 ソルボンヌ大学	近代イギリスとイタリアの文化交流についての歴史的研究	ヴェネツィアIUAV大学を拠点として、英国ヴィクトリア時代の批評家ジョン・ラスキンの足跡をたどりつ、ヴェネツィアの教会とバラツォの建築の調査を行なった。その際にラスキンが評価したゴシックにとどまらず、ロマネスク、古典主義、ルネサンス、イスラムなど諸様式混淆の分析を主軸とした。その調査に基づき、主に建築と絵画における様式混淆をめぐる文化的問題を、「古典主義」の規範の変奏という観点から考察すべく、イタリアとフランスの各地で調査を行なった。	—
	准教授	ADAMI.Sylvain.	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	フランス	フランシュ・コンテ大学	フランス語教育におけるe-learningの活用方法	今回の在外研究は、主にPrepaFLEのオンライン授業の分析、特に個別指導の機能に焦点を置いた。この分析、観察により、実践（教育法、組織構造、技術、社会的な感情）を類型することができた。またこの分析、観察結果はオンライン授業に於けるチューターの在り方と学習者の在り方、その間にある妥当性に関する新たな興味深い研究課題を見出した。確かに、デジタル教育の発展は教育者の教授法、慣習を変化させるだろう。	—
	准教授	菊地 重仁	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	ドイツ	ベルリン自由大学	ヨーロッパ初期中世における紛争抑止「装置」についての総合的研究	ヨーロッパ初期中世における紛争抑止「装置」について総合的研究	—
	准教授	三浦 哲哉	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.22	アメリカ	南カリフォルニア大学	映画教育および映画製作における古典的ハリウッド映画の位置 Classical Hollywood Film in the Education and the Production	南カリフォルニア大学で「古典的ハリウッド映画」の調査と分析を進めた。映画製作および理論的教育の両面において、古典的映画がいかに参照され、「国民文化」としての映画の歴史意識の醸成がどのようになされているかについての知見を得た。我が国における、映画をめぐる「文化政策」の構想、教育機関の運営において、参考にすべき点のきわめて多い事例であった。	新型コロナ感染拡大の影響により、研究期間の短縮
教育	教授	杉本 卓	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	フィンランド共和国	タンペレ大学	初等中等教育の授業における情報通信技術の導入・拡充プロセスに関する研究：フィンランドの小中学校での授業観察・聴き取り調査を通して	フィンランドの初等中等教育の授業におけるICTの活用と、教員の考えおよび社会的背景との関係について、授業観察、教員への聞き取り調査、および文献研究に基づいて考察を行った。その結果、「学び」についての考え方が、授業のあり方と授業におけるICTの活用方法の大きな鍵となっていることが明らかになった。	—
経済	教授	高 準亨	長期 (1年)	2019.8.6 ～ 2020.8.5	アメリカ	コロンビア大学	世界の住宅市場の運動性について：東アジア諸国を中心に	2019年8月から2020年8月までアメリカ合衆国ニューヨークの所在するコロンビア大学にvisiting scholarとして滞在しながら在外研究を行った。コロンビア大学やニューヨーク大学で開催されるワークショップやコンファレンスに参加した。また、アメリカ国内で開催された複数の国際コンファレンスに参加・発表した。そこで他の経済学者達と研究の話ができ、自分の研究をさらに深めるための沢山の意見交換ができた。Asia-Pacific Journal of Accounting & Economics にGeography of Gravity を投稿し、ピアレビューを経て、掲載することが決まった。	—
国政	准教授	渡邊 理絵	長期 (1年)	2019.8.24 ～ 2020.8.23	アメリカ	Harvard University, Weatherhead Centre (main host)	気候政策転換とアクターの理念：米国を事例として	ハーバード大学国際問題研究所、南カリフォルニア大学公共政策大学院に客員研究員として滞在。米国の気候エネルギー政策形成過程に関与する利害関係者に聞き取り調査を実施し、先進工業国最大の温室効果ガス排出国、世界最大の経済国である米国の気候エネルギー政治において、「理念」が果たす役割を同定。	—
総文	准教授	福田 大輔	長期 (1年)	2019.9.2 ～ 2020.9.13	フランス	パリ第8大学 精神分析研究科	ホロコーストによる戦争トラウマと第二次世界大戦後のフランス精神分析運動—ジャック・ラカンを中心とした系譜学	仏語による発表は諸事情（年金改革計画にたいする反対運動、コロナ禍）のため中止となったが、一本の論文がWeb上で公表された。在外研究課題については、これまでの草稿をきちんと論文化して実際に出版可能か否か出版社に問い合わせている。三島俊後50周年のため、三島論を仕上げる機会があった。これについても出版社に書籍化可能かを打診している。最後に、三島由紀夫研究と精神分析研究に携わるフランス人若手もしくは中堅もしくは長老的立場にある研究者と親交を深めることができたのは、在外研究でしか得られない貴重な経験となったことを付記しておきたい。	—
理工	教授	水山 元	長期 (1年)	2019.4.1 ～ 2020.3.31	スウェーデン スイス	王立工科大学 スイス連邦工科大学チューリッヒ校	多主体協働系の制度設計、ならびにその構成員のスキルの解明、評価、習得支援のためのシリアスゲーミングアプローチ	本研究では、(シリアスゲームを用いた参加型シミュレーションなどの)行動科学的手法と(Eージェントシミュレーションや強化学習などの)数理工学的手法を組み合わせ、多主体協働系の制度設計と構成員のスキルの解明、評価、習得支援に有用な知見を獲得していくための科学的なアプローチを開発し、事例検証を進めた。	—
法務	教授	熊谷 士郎	長期 (1年)	2019.9.1 ～ 2020.8.31	ドイツ	ゲッティンゲン大学	成年後見法の理論体系の構築に向けて—ドイツ法との比較を手がかりとして—	ドイツ世話法の第一人者で、倫理委員会の代表でもあるゲッティンゲン大学のフォルカー・リップ教授にご指導いただきながら、ドイツ世話法の研究を行った。在外中に世話法の改正作業が進行していたため、その動向をフォローすることに主眼を置きながら、日本の成年後見法との比較的研究を行った。具体的にドイツ法を論じたものではないが、このような比較的研究を意識しながら、在外研究中に、任意後見契約法に関する論文を執筆し、帰国後、成年後見開始の要件に関する論文を執筆することができた。	—